





審査結果報告書

2019年 9月 2日

主査 氏名 佐藤之俊 

副査 氏名 武田 啓 

副査 氏名 村雲 芳樹 

副査 氏名 隈部 俊宏 

1. 申請者氏名 : 松木 崇

2. 論文テーマ : Classification of tumors by imaging diagnosis and preoperative fine-needle aspiration cytology in 120 patients with tumors in the parapharyngeal space
(副咽頭間隙腫瘍 120 例における画像診断による分類と術前穿刺吸引細胞診)

3. 論文審査結果 :

副咽頭間隙腫瘍は、全頭頸部腫瘍の 0.5%と稀な疾患であり、解剖学的な存在部位から治療前診断や手術困難である。このような特徴から本腫瘍の症例を蓄積することは難しく、治療戦略につながる発生部位や組織型の診断について多数例での検討はない。とくに、術前診断に関し穿刺吸引細胞診(FNAC)による術前診断の報告はなく、施行対象の選定や正診の定義も曖昧である。

本研究では、副咽頭間隙腫瘍 120 例を集積し、画像診断による発生部位の分類と FNAC による術前診断の有用性について検討した。その結果、発生する腫瘍の組織型は従来の報告どおりであったが、悪性腫瘍はすべて副咽頭間隙の前区から発生していた。FNAC は 65%の症例に施行されており、良悪性の正診率は 95.2%と高いことが示された。なお、検体不適例は後区発生腫瘍や神経鞘腫に多いという結果であった。以上より、画像診断による発生区域の分類と FNAC による組織型推定は、本腫瘍の治療戦略を考える上で有用であるという有意義な研究であった。

本研究に関する質疑応答では、稀な腫瘍であり解剖や文献の明示が必要なこと、本腫瘍の発生母地、FNAC の後遺症、さらに、今後の研究展望に関する多くの質問がなされ、申請者はこれらに適切に回答した。以上より、本研究は博士課程の学位論文に相応しいものであると考えられ、博士号を授与するに十分値すると判定された。